

このたび3月末にて定年退職することになりましたのでご報告申し上げます。

西暦が変わった2000年春に札幌医科大学整形外科教室を退局し、五輪橋整形外科病院に入職しました。当時は故佐藤院長のもと、田中先生・石間先生と私の計4人態勢で診療業務に当たっておりました。しかし、石間先生および田中先生も退職された為、しばらくはマンパワー不足で悪戦苦闘・疲労困憊の毎日を過ごしておりました。

平成27年春には闘病中であった故佐藤院長が急死され、急遽3代目院長を命じられた次第です。院長職は私にとって不慣れでしたが、職員一同の協力のもと続けることができ大変感謝しております。在職中の一番の出来事はコロナ禍での診療でした。幸いにも職員、入院患者さんとも重症化することなく乗り越え、令和4年念願の新病院完成に漕ぎ着ける事が出来ました。これを機に故佐藤院長のご子息にバトンを渡すことができましたので、院長職を下りさせていただきました。

五輪橋整形外科病院を潰すことなく次世代に引き継ぐ事ができ、亡くなられた佐藤院長との約束が守れた事に安堵しております。現在の心境は、アメリカ陸軍元帥ダグラス・マッカーサーが退任演説での有名なフレーズ。「Old soldiers never die, they simply fade away」、和訳すると「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」。私の任務は終わった心境です。

長年通っていただいた患者さんとお別れするのは後ろ髪を引かれる思いですが、  
今後は体調がすぐれないこともあり外科医としてはメスを置き、札幌を離れ田  
舎で「整形内科医？」として「のんびり」と細く長く働く予定です。

足腰が悪いのに雨の日も雪の日も通っていただいた患者さん。何時間も診察で  
待たされても文句一つ言わない患者さん。孫の代まで 3 世代で通っていただい  
た患者さん。遠方に引っ越したにもかかわらず 1 時間以上かけて通い続けてく  
れる患者さん達に勇気づけられ、癒され、パワーを頂き続けることが出来ました。  
大変感謝しております。

また、共立五輪橋病院および中村記念南病院の諸先生をはじめ近隣の先生達に  
は、日々助けられ 4 半世紀にわたり勤務する事が出来ました。言葉では言い表  
せない程感謝しております。

今後の皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。

広瀬和哉